

# ちいきのなかま通信

No.53

発行日：平成29年8月1日

発行者：特定非営利活動法人ちいきのなかま



## 津久井やまゆり園の事件のこと

### 誰のいのちも「大事だから大事だ！」と言う

今、日本社会は深刻な局面にあるな、と事件後に思いました。潜在化した「鬱憤」を、あの事件はあぶりだしました。闇が独り歩きを始めたような…「基本的人権の尊重」これからは「きれいごとではすまされないな」と強く思っています。



障がい者の家族は不幸なのか？多くの家族を見つめ続けてきて私は、それは偏見だと知っています。障がいや病気によって一時的に混乱しても、人は幸せを見出す、うちなる力を持っています。

平成11年でした。私は仲間たちと「はぐくむ」という一冊の小冊子をまとめました。「佐世保子ども発達センター」設立まで療育施設がなかった佐世保で、障がい児を育てる苦勞を多くの親たちから聞きました。それは言葉にならない苦惱、苦勞を共有できる仲間との出会いもほとんど望めない孤独な育児でした。その「孤独・孤立感」をなんとかしたい。そこで母親たちの体験記を冊子にして、共有しようと原稿を募り編集に取り組みました。その冊子には、当時の親たちの戸惑い、葛藤、障がい受容の歩み、「苦勞、苦惱する家族」の日々を見出すことができます。

この冊子作りの仲間の川下智幸さんの文書を抜粋します。文書内に登場する「妻」は現在「ちいきのなかま」の理事の川下昭子さんです。ご夫婦は、今、地域で障がい児・者の問題解決に向けて尽力されている私たちの「仲間」です。

「…振り返ったときに、まず感じることは、妻と子どもへの謝罪と感謝です。子どもの重度障がいを療育機関で指摘されたときの私自身は、妻を責め、療育に全く協力しなかった、そればかりか、私の人生にとって子どもの存在が壁になるようにとさえ強く感じました。本当に愚かな父親でした。このようななか、妻はただ、パニック、超多動への対応、身辺自立の訓練などにも文句を言わず、ただ懸命にがんばっていました。中略…私は人生の目標も変更せざるを得ませんでした。そして目標を変更することが、実は人生の上で大変意味深いことであつたと気づくまでそんなに時間は必要としませんでした。」

この川下さんはじめ、小冊子に寄稿された方々は、苦しみの体験を乗り越えて今、変化しています。それは自らの苦しさ、差別や偏見、不寛容さによる生きづらい社会の在り方に起因すると気づきます。そのプロセスに学習があります。正しく障がいを理解できたからこそ、その結論に達することができます。子育ての中で、真実を体験し価値観の転換ができてこそ変化はもたらされます。それは、「何かができる」とか「優れている」という外付けの価値ではなく、命そのものの尊厳への気づきです。

「役に立たない障がい者は生きる価値がない」という言葉、ヘイトな発言にはうんざりです。ただ、これからは看過できない。それが間違いであることを、私たちは伝え続けます。この事件は今の日本の試練だと思っています。

## 『市長ときらっ人トーク』参加しました！

7月21日（金）に佐世保市長とお弁当を囲み、佐世保市のこれからについて意見交換をおこなう「市長ときらっ人トーク」へ参加しました。

今回は、昨年度佐世保市の子育てアイデア奨励金を利用して活動した方々にお声がかかり、7名が参加。それぞれの活動の紹介や佐世保の子どもや子育ての状況などに対する意見交換をさせていただきました。



市長は、興味深く熱心に聞いて下さり、「みなさんととても素晴らしい活動をされていますね。」とも言っていました。

私は、奨励金を利用させていただいた、2月の「ようこそ！赤ちゃん&子どもフェスタ」の報告と、これからの佐世保の子育てへの要望として、「ぜひ行政職員が佐世保の働き方改革のモデルになって下さい！」とお伝えしました。

父親が長時間労働や、出張、単身赴任などで育児や家事を母親ひとりでほとんどになっている家庭は佐世保でも多く存在します。実際にわが家も夫が仕事の日子どもたちが起きている時間に帰ってくることはほとんどありません。しかし、子どもたちの成長とともに、子どもの世話や家事をしなくても父親が家庭に存在しているという事自体が重要になってきていると感じます。

世間では「ワークライフバランス」や「女性活躍推進」「働き方改革」と様々な取り組みがされていますが、身近で取り組まれている実感はなくどこか都会の事のように感じることもあります。そこで子育て家庭も多く働く行政が佐世保市の働き方改革のモデルになってほしいと思い、お伝えしました。他に参加された方々の活動をより知ることもでき、今後、情報交換や連携もし易くなると思います。この様な機会をいただき本当に有難かったです。

# 新企画！イラストでみるちいきのなかま「〇〇のこ～んなかんじ」

ちいきのなかまの周りで起こる出来事をイラストで紹介☆

## ファミサポの こ～んなかんじ

by 蓮すけ



ファミサポでお預かりのお子さまの8割が0歳～2歳までの未就園のお子さまです。幼稚園入園を機にお預かりが終了することもよくあります。

乳児期からご利用が始まり、3歳の入園まで定期的にお預かりすると、成長が一番めまぐるしい時期のサポートの様子を書いた報告書が、成長記録になるのですね。「宝物」という嬉しい言葉とともに、依頼会員さんより教えていただきました。

「あの子は元気に幼稚園行ってるかな～」なんて提供会員さんとスタッフとで懐かしむ時もあり、ファミサポはほんのちょっとの期間のお手伝いだと実感します。いつか終わるこの期間、ファミサポや子育て支援機関も上手に活用してもらいたいと思っています。

## ファミサポ分析

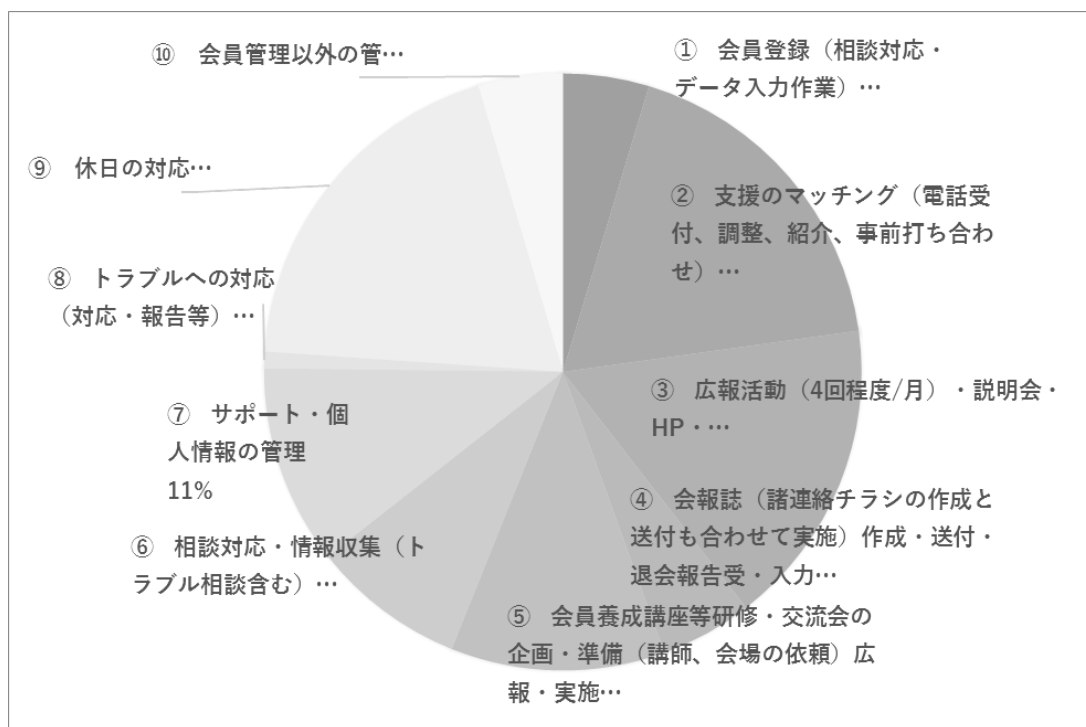
今、いろいろな場面でファミサポ事業プレゼンの機会があります。今でこそ、佐世保市内では何とか定着したものの、この事業説明は伝わりづらいと思います。

事業運営する立場としては、支援者と子育て家族が預かりをきっかけにより関係を作り、子育てを応援した事例などを伝えて、この事業へのご理解とご協力をお願いするお話もよくさせていただきます。日々、説明については検討を重ねています。

今日は新たな視点でのファミサポ分析をご紹介します、みなさんにご意見をいただければと思います。ファミサポ事業業務にかかる時間を積み上げ、集計して、この事業の説明を試みています。きっかけはある議会の議事録を読んだことでした。ある相談事業について議員さんから「相談件数が少ないのだから、ずっと人を貼り付ける必要などないのでは…？」という質問。なるほど、そう評価されるのか…。

確かに、件数が少ない時には電話対応にかかる時間は減ります。だから動いていないかというシャドウワークがないわけではない。改めて私たちの働き方を確認しようと作業してみました。

### グラフ「業務時間配分」(H28年度)



支援のマッチングが業務の20%。意外と少ない。ファミサポ事業は電話待ちで、紹介して終わりかと言うとそうでもない。①③④⑤⑦で業務の50%程度。トラブル対応の割合が少ないのは提供会員さんのおかげです。ヒヤリハットの提供会員さんの発見は重要な情報で、報告書だけでなく、直接会話で情報収集しています。最近、LINEでのコミュニケーションを提供会員さん限定で開始。コミュニケーションの効率化が必要になりました。休日対応は出勤だけでなく、スタッフとの連絡が取れるような配慮も含まれます。重責を担っていただく提供会員さんへの配慮として「そうせざるを得ない状況」もあるということです。リスクをどこまで引き受けるのか…契約と照合しながら今後も検討が続きます。

## アドバイザーの資質

ファミリーサポートセンター運営の手引き（女性労働協会 発行）P22 「①アドバイザーの選定」には以下のように記載されています。

「…そのためアドバイザーには育児に関する専門的知識だけでなく、センターを訪れる多くの地域の方々と円滑なコミュニケーションをとることができることや、地域の子育て支援に関する情報を常に収集することが求められ、これらを考慮して委嘱する必要があります。そのためにも、アドバイザーの身分保障は特段の配慮が必要で、アドバイザーとして十分活躍できるような環境を整える必要があります。」

佐世保の場合も、事務能力と豊かなコミュニケーション力が求められます。全国的にファミサポ職員の身分保障がなされていないのは残念なことだと思います。多様な業務をこなすアドバイザーさんに対して当法人がお願いしている業務理解と対応を一覧にまとめてみました。

キーワード		理解しておきたいこと	アドバイザーの対応
主体者	会員 〔子どもと保護者 提供会員〕	子育て家庭は子どもの成長に伴い家族形成のプロセスにいる。 孤立化が進行し、短時間の手助けを受けることも困難	家族相互の支援を妨げない  子育て環境を知ることと対象者への個別理解と共感
責任性	本人の自己決定による	保護者が、困り事を自覚し、生活全般を見て支援をうけることを自己決定し、責任を負う  支援者にも責任が発生	育児主体の自覚促す対話  支援の限界を共有
関わり	本人の主体性への促し	選択肢を示し、どのような支援を受けるのかどこまで支援するのか、主体として選択できるように促す	支援への依存の防止（必要な支援情報の提供）
課題の捉え方	子育ての生活のしづらさ	解決したいのは、子育てのしづらさであり、親育てを目指すものではない	支援の報告を受け、そのあり方を検証（ケース検討）
関係性	子育てのパートナーとして支える		指導ではなく、共感的かつ客観性を持つ  スタッフも提供会員も支援者の立場
問題の所在	地域の環境や子育て家庭の孤立化	環境や孤立化を解消することに重点 提供会員にも孤立化の課題あり	家族個別の問題や関係性の課題はネットワークにつなぐ、日常的に情報提供の準備をする。
活動	相互援助・補完的	本来はかつての「お互い様」の支え合いで保育制度等を補完する役割だった。家族支援が必要な時代になり、徐々に業務内容が拡大している。	常に立ち位置の確認。担当課との業務の検討を年毎に丁寧に行っていく。

基本姿勢として、この支援は公的な位置づけで行うものであり、必要な人を支援し、家族相互で助け合えることや地域での支えが可能ならそちらを優先させることが大事だと考えています。そのように取り組んでも件数が伸びている…やはり子育て家庭の孤立化は着実に進行しているのだと思います。ファミサポ事業で対応できない状況に対してちいきのなかまとして課題分析して取り組んでいこうと努力する日々。

どのような支援がいいのか…暮らしに添う支援、がいまひとつ、私たちがもつ答え。

当事者性を大事にして、利用者の暮らしと気持ちに添う。

## 子どものいのちと心をまもる市民ネットワーク 講演会 開催しました！

佐世保市高一同級生事件から3年となる7月、ネットワークでは講演会を開催しました。入場者は130名。事件から3年、事件の風化が心配です。なぜなら、事件報道で、またはネットで強調された加害者と家族の特異性のみが見えてしまい「普通さ」が見えていない。だから、多くの市民は、加害者家族にとっての子育て困難に共感ができなかった？また、問題解決に動くはず各機関が機能しなかったことは、もしかしたら、いつかは自分の問題になる、などとは思っていないのだと思います。

佐世保市高一同級生事件から3年

### 佐世保事件からの教訓を学んで。

～子どものサインにこたえる大人の役割とは～

日時：2017年7月29日（土）13:00～16:00

会場：佐世保市コミュニティセンター5F 大ホール

参加費：¥1,000（大学生まで無料）

講師：広木 克行氏



報告書を紐解く中で、事件前に亡くなった加害者の母親は、いつのまにか子育て支援の世界で「カリスマ」化していたのかも再認識しました。かなり以前になりますが、彼女と子育ての市民活動を共にした時分、私も彼女も未熟な母親で、子育てに悩んでいました。だからこそ、母親や家族に支援は必要だと社会に伝える活動を共に展開できたと思っています。しかし、彼女の家庭は、両親ともに社会的地位が高く、周囲から「あの家族は磐石！」と評された。故にSO5が出せなくなっていたのでしょうか。きっと「孤立した状況」になっていった彼女のつらさを今更ながらに思った次第です。

「あの子（加害者）が社会に出てきてほしくない」「同じ社会にいると思うと怖い」

市民ネットワークで活動する仲間たちがこの集会について紹介した時に、聞こえてきたつぶやきです。私たちが暮らす地域で起きた残虐な事件で、事件直後からのなんとも表現し難い複雑な心情、怒り、感情は、いまだどこにもやり場がないのかもしれない。表出している感情には対処の可能性もあると思いますが、表出せずに市民の中に埋没する感情や心情は、目に見えず潜在的に闇の中で影響しそうで、私たちはそちらのほうが怖いと思っています。特に子どもに関わる大人が、きちんと整理をつけておく必要を強く思っています。

広木先生が話されたことのなかで、とても大事に思ったこと 「教育虐待」という言葉は印象深く思いました。親は愛情をもち、子どもが困らないようにと先回りして、早期教育に取り組もうとします。時には子どもの発達段階に配慮ないまま、幼児期から多くの時間を学習や習い事に費やすこともあります。乳幼児期、児童期、子どもたちは家族から愛情を注がれ、発達段階にそって自発的に遊ぶ体験がとても大事です。その機会を奪うことは、人としての成長を阻む可能性もあります。子育て支援の中では、親たちの意思を尊重します。子育て家庭に干渉することは、今の時点ではしていません。ただ、すでに子どもの様子から、危機的な状況も見えています。今後、私たちも状況を把握しながら、情報発信できたらいいなと思います。

今後も、事件を忘れないし、再発させないための努力をしていきたいと思っています。（守永 恵）

## NPOとコミュニティの地域づくりを考える

### ～地域コミュニティに参画して感じること～

#### 婦人部長として地域コミュニティで気づくこと

未だ馴染めないながら「婦人部」という名称と役割を担っています。町内会役員の構成は重要ポストは70代後半の方。年金で所得補償されていてゆとりあり、地域のことに詳しく、市役所OBなので行政との交渉力が高くお任せしておけば大丈夫！という感じ。次世代は50代中心に40代がいてくれる。60代は空白で、町内見回しても協力的な人は少ないと感じています。

具体的に活動してみているのは…

- ・長期政権役員と取り巻きが「あ・うん」の呼吸で仕事←ほかの人が関わりづらい
- ・恒例イベント、実施について説明ないまま役割が決まる←現役世代の労働実態無視
- ・元専業主婦、または退職者が活動の中心で活動時間平日昼←世代超えた情報共有困難
- ・高齢者の役員の「常識」←次世代一般ピープルには「価値観の押しつけ」「強制」
- ・「事業」や「会議」にシャドウワークが多い←集合時間前でも「遅れた私？」の空気

などなど。また、明文化されていないルールあり、空気読めないと×。根拠不明の決まりごとに戸惑いも多い。一番困るのは、役員が動き、地域住民が「お客様」が定着している事。で結果、持続不可能な体制を作ってしまった現実からどう脱却するのか…

さて、そのような中NPOの経験しかない私に何ができるのか、今考えて発信も始めているところです。

#### なぜ今地域コミュニティ???

これまで、使命感からPTA役員、また、地域の班長や区長引き受けたぐらいがコミュニティとの関わりで、積極的な関与の経験はゼロの私。地域コミュニティで居心地よく活動したことはなく、まさか自分が地域コミュニティに軸足をおくことなどありえないことでした。きっかけは弱体化している地域コミュニティで進行する人の孤立化、無縁社会化。基盤がないなかで、介護予防やゴミ問題に地域が重い負担を負う事への危機感を持ちました。災害時の地域の役割を知ったことも大きな要因です。

今、佐世保市内では公民館単位で、地域包括支援センターや社会福祉協議会などの協力で介護予防の「100才体操」などが取り組まれています。人口減少社会、特に地方の福祉はボランティアな取り組みが不可欠ながら、それは制度の補完であることを前提に取り組まれるべきだと考えています。だからこそ、市民として参画し、支えながら、社会をチェックする目線を持つべきだと思います。

そんな折、日本NPOセンター主催の「NPOと行政の対話フォーラム '17 市民社会とコミュニティ～出会いと共振による地域づくり～」(7月14日開催IN横浜)にちいきのなかま事務局 三宅さんに参加してもらいました。配布された資料はとても参考になるものでした。関心ある方はお尋ねください。

NPOと地域コミュニティ、どう協働するのか。実践も交えて、これからも、ときどき、お知らせしたいと思います。

(守永 恵)



## ●これからベントや講座の予定●

よろしければ予定に書き加えていただければ幸い。  
イベントには有料・無料、託児の有無などあります。  
事前にお問い合わせください。

イベント名	日時	会場	内容
ぼちぼちヨガ教室	8月7日・28日 (月) 14:00~15:00	ボランティア 研修室	定期開催 参加費¥500 会員外¥800
おもちゃ図書館	8月22日(火) 10:00~12:00	ファミサポ 事務所	定期開催 参加費無料

ご寄付に感謝 活用させていただきますm(\_ \_)m

田中美貴さんより寄付金・佐藤美和さん(あそぶよむつくるぶほ)・田中謙一さんよりカードゲームなど・山崎翠さんより切手

## 後記

NPO法人がどんどんつぶれている…らしい。というか、活動実態がなく決算報告書を提出しないまま数年が過ぎた、という団体はたくさんあると思います。出来るときには雨後の竹の子状態でした。「何かやりたい」と使命感に燃えても情熱だけでは長続きしない。ちいきのなかまも組織としてもいまだ未成熟ではありますが、人に言えない苦勞も重ねてきています。持続可能な組織でありたいと願う段階から、自主事業で稼げる団体になりたい…NPOがつぶれる時代に逆行してみる。向かい風って楽しいなと思う皆さんと一緒に。

### NPO法人ちいきのなかま

入会・会員(正・賛助) 会員継続のご案内  
正会員: 総会議決権あり 入会金¥1,000 年会費¥6,000  
賛助会員: 総会議決権なし 年会費¥3,000  
主な特典: 各種事業会員特別料金にてご優待



### 連絡先 NPO法人ちいきのなかま

〒857 0022長崎県佐世保市山手町9-19  
携帯 090-9498-3608  
E-mail: [chiikinonakama@basil.ocn.ne.jp](mailto:chiikinonakama@basil.ocn.ne.jp)  
HP: <http://chiikinonakama.bo.jp/>